

発行: 2011/2/15

カテゴリ: 映像ソフト
期間: 2010年1月-12月期

2010年 映像ソフト市場総括

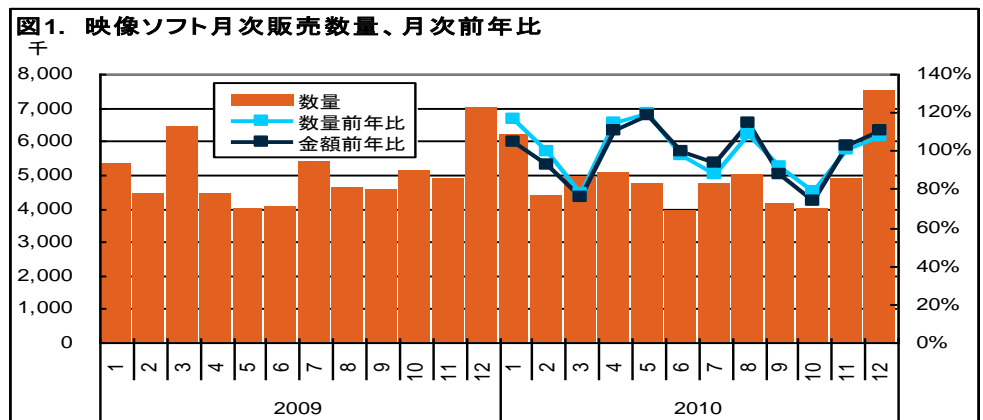
【映像ソフト全体】

2010年の映像ソフト市場は、数量前年比1%減、金額前年比3%減。数年来続く市場の縮小傾向に一服感。

1. 2010年市場規模

2010年のセル映像ソフト市場(通常DVD、Blu-ray、UMDなど全て含む)は、5,936万枚、2,348億円。数量前年比1%減、金額前年比3%減とわずかに前年を割り込む結果となった。プラス成長には至らなかったが、2005年にピークを迎えて以降(JVA出荷統計)続いた市場縮小傾向はやや一服したと言える。特に、2008年、2009年と2年連続で二桁減となった金額は、減少幅に大幅な改善が見られた。単月前年比を見ると3月、10月の落ち込みが目につくが(図1)、これはビッグタイトル発売時期の前年とのズレによるところが大きい。通年では数量・金額前年比がプラスとなった月が半数を数え、前年の4ヶ月を上回った。

数年に渡る縮小傾向に徐々に持ち直しの動きが見られ始める中、2010年の映像ソフト市場はマイケル・ジャクソンのドキュメンタリー映画「THIS IS IT」の大ヒットで幕を開けた。劇場興行収入50億円、観客動員数400万人を達成した同作は、パッケージソフトでも約135万枚(全フォーマット合算)という異例の売上を記録、年間販売数量ランキング首位を獲得した。さらに続いて発売された、アイドルグループ嵐によるコンサートDVDと劇場版アニメ「エヴァンゲリオン新劇場版:破」がいずれも70万枚を超えるヒットとなった他、3D映像で話題をさらった「アバター」も好セールスを収めるなど、上半期は社会現象とも言うべきインパクトの強い大作が続々と投入され、市場に大きく貢献した。「THIS IS IT」「嵐」「エヴァンゲリオン新劇場版:破」の上位3作品で、上半期市場のおよそ10%(金額ベース)を占めることから、その影響度の大きさが伺える。下半期は、前年同期が好調だったことから前年比としては若干落ち着いたものの、洋画や邦アニメといった主力ジャンルが堅調に推移し、全体としても底堅い動きを示した。また下半期は、9、10月を除き金額前年比が数量前年比を上回った。これは、通常DVDからより価格の高いBlu-rayソフトへのシフトが進み、Blu-rayソフトの金額構成比が下半期市場全体の約20%にまで増加したことが一因である。



*ゲームソフト同梱版のDVD、Blu-rayソフトは除いています。

*個別作品の販売数量・金額は当社カバーの4チャンネルの合算値です。

本レポートの内容についてはジーエフケー・ライフスタイルトラッキング・ジャパン株式会社が提供する各種データ及び正確かつ信頼できると認識される各種情報を元に作成され、その正確性及び信頼性の維持向上に努めますが、レポート内容の正確性、信頼性及び特定目的への適合性について一切保証するものではありません。本レポートの著作権その他一切の権利はジーエフケー・ライフスタイルトラッキング・ジャパン株式会社に帰属します。いかなる形式であっても無断での引用、転載、再配布は禁止いたします。

平均価格は3,955円。洋画ジャンルではなおも値下がり傾向にあるが、全体的な価格はほぼ前年並みの水準で推移する見通し。

映像ソフト全体の実売平均価格は、3,955円。前年から2%下落し4,000円を割り込んだ。2009年に続き前年を下回ることとなったが、下落率には改善が見られた(6%減→2%減)。価格下落の要因のひとつに、洋画ジャンルの構成比増加が挙げられる。洋画における平均価格は、通常DVDの「どれでも3枚3,000円キャンペーン」やBlu-rayソフトの急激な値下げなどにより、対前年二桁減という下げ幅を記録した。邦アニメや音楽といったジャンルの多くが前年並みの価格を維持、あるいは平均価格を上げる中、元々他ジャンルに比べ価格が低い上に、大幅な値下がりを示した洋画が構成比を増したことが、全体の平均価格を押し下げたと見られる。

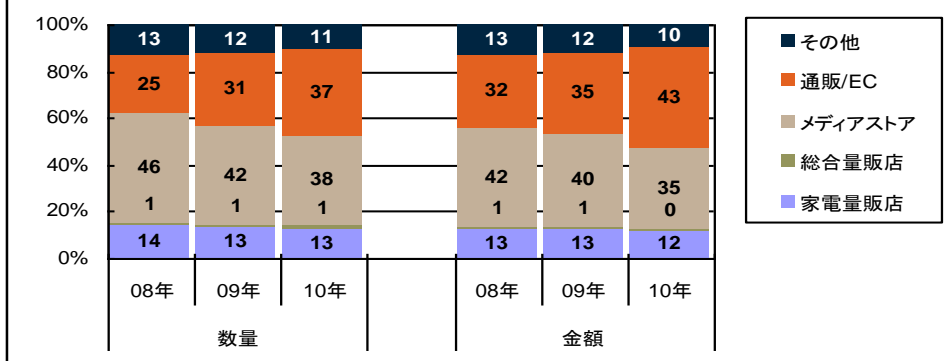
洋画ジャンルにおける通常DVD・Blu-rayの値下げはなおも続くと予想され、Blu-rayソフトの販売増によって吸収しうる部分はわずかと見込む。一方、他ジャンルの価格は安定して推移しており、Blu-rayソフトへのシフトといったプラス要因も働くことから、しばらくは急激な値下がりはないものと予測される。市場全体では、洋画の下落分を他ジャンルが吸収し、ほぼ前年並みの水準で推移する見通しである。

販売チャンネル別金額構成比では、Eコマースが最大チャンネルに。2位メディアストアとは8%ポイントの差が開く。

2. 2010年市場規模 - チャンネル別

販売チャンネル別金額構成比は、メディアストア35%、家電量販店12%、総合量販店0.4%、Eコマース43%。ここ数年絶えることのなかった流通再編の動きは2010年に入り本格化し、市場に劇的な変化をもたらした。ニュースでも大きく取りざたされたリアル店舗の苦境とEコマースの躍進は数字上にも現れている。上半期の時点でEコマースがメディアストアを抜き、5%ポイント差で最大チャンネルとなったが、下半期はさらにその差を広げ、暦年の金額構成比では2位メディアストアに8%ポイントの差をつける結果となった。数量ベースでは、メディアストアが38%の構成比で首位の座を堅持したが、2位Eコマースとの差はわずか1%ポイントにまで縮小。2011年には、数量・金額ともにEコマースが最大チャンネルとなると見込まれる。家電量販店は、エコポイント制度による来客数増加が映像ソフト販売にも好影響をもたらし、下半期は回復基調に転じたものの、上半期の低迷が響き暦年の金額構成比では前年から1%ポイント落とすこととなった。リアル店舗が縮小する中、Eコマースが唯一数量・金額ともに前年実績を上回り、一人勝ちの様相を呈している。

図2. チャンネル別構成比



洋画ジャンル数量構成比は、2009年から5%ポイント増加し31%となるも、平均価格の落ち込みが影響し、金額構成比は対前年1%ポイント増に留まる。

3. フィーチャ動向 - ジャンル別動向

低迷にあえいだ前年から一転、洋画はジャンル別数量構成比31%と前年から5%ポイント上昇し、市場における存在感を取り戻した。「THIS IS IT」や「アバター」といった新作の超大作が牽引した一方、市場を下支えしたのが旧作販売である。前述の「どれでも3枚3,000円キャンペーン」といったディスカウントキャンペーンが、流通各社で大規模に展開されたことにより、新作を上回る成長率で伸張。洋画の数量構成比増大に大きく貢献した。但し同時に平均価格を引き下げる一因ともなったため、全体に占める洋画の金額構成比は16%(対前年1%ポイント増)と、数量構成比のおよそ半分程度に留まった。

邦アニメは数量構成比18%（対前年1%ポイント増）と堅調に推移。突出したBlu-ray比率を背景に、金額構成比も前年から3%ポイント押し上げ24%となった。

一方音楽ジャンルは数量構成比21%と、前年から3%ポイント減少した。金額構成比では、邦アニメを押さえ最大ジャンルを維持したものの、前年から2%ポイント落とし25%となった。前年の活況は、マイケル・ジャクソン急逝に伴う関連作品の特需によるところも多く、こうした特需が落ち着いたことが構成比減少の理由のひとつである。また、前年に2作品発売された嵐のDVDが、2010年は1作品のみの発売だったことも少なからず影響したと推測される。1作あたり70万枚、30億円以上の販売力を誇る彼らが、市場に与えるインパクトは大きい。邦画も数量・金額それぞれで前年から構成比を減らしたが、2011年には話題作の発売が続々と控えており、復調が期待される。洋・邦TVドラマはほぼ前年並み。米国TVドラマの廉価化が進み金額が落ち込む一方で、韓流が再び盛り上がりを見せ下落分を補った。

メーカー（発売元）数量シェア首位はワーナー、金額シェア首位はエイベックスと、前年と変動なし。ディストリビューター（販売元）シェアも前年に引き続き、数量、金額ともにソニーミュージックが首位を独占。

4. メーカー動向

メーカー（発売元）数量シェアは8.3%を獲得したワーナー・ホーム・ビデオが、金額シェアは7.5%を獲得したエイベックスが、前年に続き首位を維持した。ワーナー・ホーム・ビデオは下半期を中心に魅力的な作品を取り揃えた他、「ハリー・ポッターと死の秘宝 PART1」の劇場公開に合わせてシリーズ過去作品のDVDが再浮上したことも寄与し、数量を伸ばした。エイベックスは、EXILEや東方神起らによる音楽DVDはもちろん、人気アニメ「ONE PIECE」のTVシリーズDVDも好調な売上を記録した。

ディストリビューター（販売元）シェアも、ソニーミュージックが数量シェア10.3%、金額シェア12.3%で引き続き首位を独占。嵐やNEWS、AKB48らアイドルグループのDVDがシェア獲得の原動力となった。

表1. 映像ソフト全体: メーカー、ディストリビューター別販売構成比ランキング

2010年 メーカー（発売元）

順位	メーカー	数量構成比	順位	メーカー	金額構成比
1	ワーナー・ホーム・ビデオ	8.3%	1	エイベックス	7.5%
2	ソニーピクチャーズ	7.3%	2	アニプレックス	4.8%
3	エイベックス	5.7%	3	ソニーピクチャーズ	4.4%
4	ウォルト ディズニー	5.1%	4	フジテレビジョン	4.1%
5	ジェネオン・ユニバーサル	5.0%	5	ワーナー・ホーム・ビデオ	4.1%

2010年 ディストリビューター（販売元）

順位	ディストリビューター	数量構成比	順位	ディストリビューター	金額構成比
1	ソニーミュージック	10.3%	1	ソニーミュージック	12.3%
2	ワーナー・ホーム・ビデオ	8.4%	2	ポニーキャニオン	9.2%
3	ソニーピクチャーズ	7.5%	3	エイベックス	7.9%
4	ポニーキャニオン	6.8%	4	ジェネオン・ユニバーサル	5.6%
5	ジェネオン・ユニバーサル	6.2%	5	ソニーピクチャーズ	4.7%

※ジェネオン・ユニバーサルは、旧ジェネオン・旧ユニバーサルピクチャーズ含む

Blu-rayソフト市場は813万枚、405億円。視聴環境の急速な整備が後押しし、前年のおよそ2倍の市場規模に成長した。

【Blu-rayソフト全体】

1. 2010年市場規模 一フォーマット(規格)別

2010年のBlu-rayソフト市場規模は、813万枚、405億円。数量前年比126%増、金額前年比102%増という高い成長率を誇り、前年のおよそ2倍の市場規模に到達した。暦年のセルソフト市場全体に占める割合は17%(金額ベース)と、対前年9%ポイント増の伸びを示した。今期は、エコポイント制度変更に伴う駆け込み需要で薄型TV、Blu-ray Disc(BD)レコーダーの販売数が著しく増加した。視聴環境が急速に整ったことも、Blu-rayソフト市場の拡大を後押ししたと推測される。

中でも、新作洋画・アニメにおけるBlu-rayソフトの構成比は40%を超え(金額ベース)、他ジャンルに先行して普及が進んでいる。新作洋画では通常DVDとBlu-rayのコンボパックが導入され、どちらのユーザーも同一商品を購入できるようになった。また、通常DVDとBlu-rayではパッケージのデザインや大きさが異なるが、11月に発売された「トイ・ストーリー3」は両者のデザインに合わせたコンボパックが2種類用意されるなど、消費者が迷うことなく商品を手にとることができる工夫が見られた。本格普及期に入ったとはいえ、コアユーザー以外の一般消費者におけるBlu-rayへの理解度は、必ずしも十分とは言えない。「商品購入時の分かりやすさ」に対するメーカー各社の取り組みが、Blu-ray構成比の高さにつながったと言えるだろう。

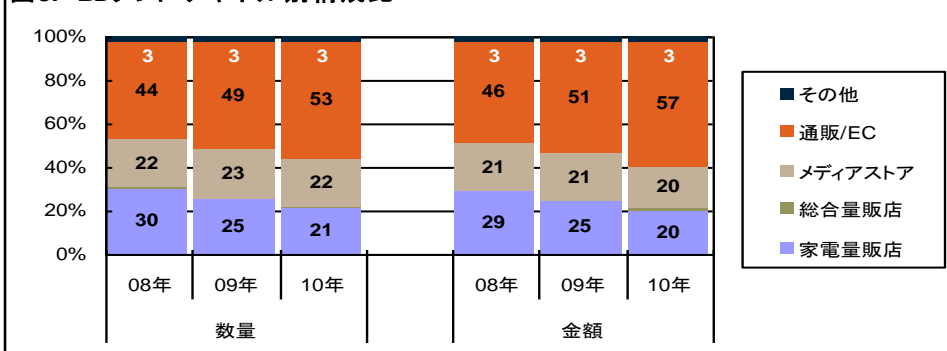
平均価格は対前年11%減の4,982円。ジャンルを問わず、全体的な漸減傾向にある。特に洋画は、前述のコンボパックの導入などにより新作の価格が下がったことに加え、通常DVDとの値差が500円にまで縮小し、値ごろ感が増した旧作販売が急増したことから、前年から700円ほど下落した。高価格商材である邦アニメも平均価格を下げ、7,000円を割り込んだ。

チャンネル別構成比は、数量・金額ともにEコマースが過半数を獲得。他チャンネルを上回る成長率で、市場拡大が進む。

2. 2010年市場規模 一チャンネル別

Blu-rayソフト市場におけるチャンネル別金額構成比は、Eコマース57%、家電量販店20%、メディアストア20%、総合量販店0.2%。数量・金額ともに過半数を占めたEコマースが、前年に引き続き最大チャンネルとなった。各チャンネルで順調に販売数は伸びたものの、Eコマースの優位性は揺るがず、他チャンネルを上回る成長率で市場拡大を遂げた。2位は家電量販店、次いで0.8%ポイント差でメディアストアが3位に位置づけた。メディアストアは他チャンネルに比べBlu-rayの拡販が遅れていたが、下取りキャンペーンなど積極的な販促施策を打ち出し販売増加につなげた。

図3. BDソフト チャンネル別構成比



2010年も引き続き、洋画・邦アニメジャンルで全体の8割以上を占める。さらに幅広いジャンルでのBlu-ray拡大を期待。

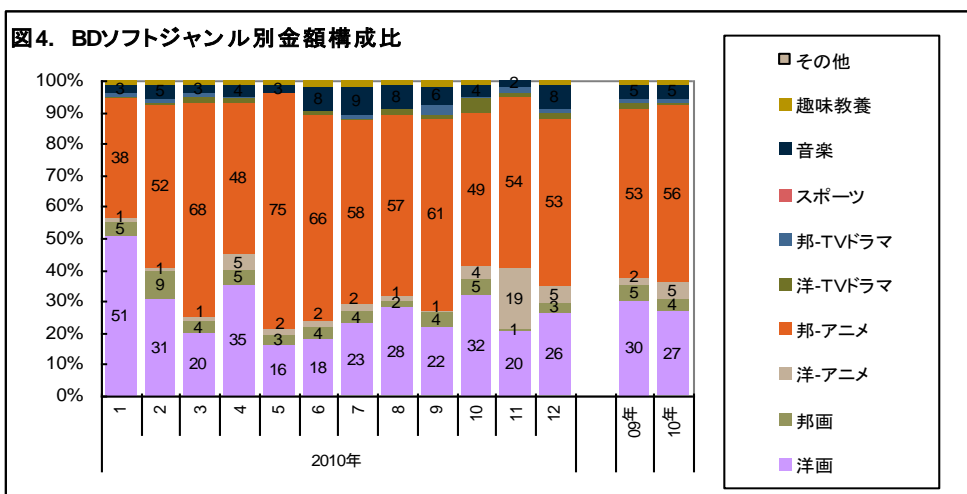
3. フィーチャ動向 – ジャンル別動向

ジャンル別金額構成比では、邦アニメと洋画の2ジャンルで市場の8割以上を占めた。暦年のジャンル構成には大きな変化はなかったが、下半期にかけては変化の兆しが見られた。

最大ジャンルである邦アニメは、前年からさらに構成比を上げ56%となった。好調のTVシリーズに加え、Blu-ray史上最高となる42万枚を売り上げた「エヴァンゲリオン新劇場版:破」を筆頭に、「サマーウォーズ」や「ONE PIECE ストロングワールド」、「涼宮ハルヒの消失」といった劇場版アニメ作品が、年間を通して同ジャンルを盛り上げた。

洋画ジャンルでは、「THIS IS IT」や「アバター」「アリス・イン・ワンダーランド」などの新作が牽引役となる一方、充実したラインナップと値ごろ感を増した価格設定により、旧作市場も飛躍的に拡大した。しかしながら、新作・旧作両分野での値下がり影響し、全体では金額構成比を3%ポイント落とすこととなった。

音楽ジャンルは、通常DVD版のみが発売される作品が依然として多いものの、いち早く新作のBlu-ray化に対応したB'zや安室奈美恵らは好セールスを記録している。特にB'zは新作売上の3割強をBlu-ray版が占めるなど、邦アニメや洋画に次いで高いBlu-ray比率を示しており、音楽ジャンルにもBlu-rayへの需要が存在することを証明している。洋アニメは、「トイ・ストーリー3」Blu-ray版が通常DVD版に先行して発売され、26万枚以上の大ヒットとなった。同作が発売された11月は洋アニメの金額構成比が急増しており(図4)、思い切った販売戦略が市場拡大に大きく寄与したことが分かる。様々なジャンルで徐々にBlu-ray化が進んでいるが、音楽や洋アニメにおけるこうした成功事例を契機に、さらに幅広くBlu-rayが浸透することを期待したい。



Blu-ray市場でも、メーカー別数量シェア首位はワーナー。金額シェアはアニプレックスが首位に立った。

ディストリビューター(販売元)金額シェアでは、邦アニメ・洋画の豊富なラインナップを持つジェネオン・ユニバーサルが首位。

4. メーカー動向

メーカー(発売元)数量シェアは、ワーナー・ホーム・ビデオが12.2%で首位を獲得。新作のコンボパックを積極的に市場投入したことが奏功した。金額シェアでは、人気TVアニメ作品を数多く手掛けるアニプレックスが、2位キングレコードと僅差ながら首位に立った。

ディストリビューター(販売元)数量シェアでも、ワーナー・ホーム・ビデオが12.2%で首位。金額シェアでは、ジェネオン・ユニバーサルが10.5%で首位となった。現在のBlu-ray市場を二分する邦アニメ、洋画両方のラインナップを有する強みを生かし、シェアを伸ばした。

表2. BDソフト全体:メーカー、ディストリビューター別販売構成比ランキング

2010年 メーカー(発売元)

順位	メーカー	数量構成比	順位	メーカー	金額構成比
1	ワーナー・ホーム・ビデオ	12.2%	1	アニプレックス	9.4%
2	ソニー・ピクチャーズ	10.0%	2	キングレコード	9.4%
3	キングレコード	8.7%	3	ジェネオン・ユニバーサル	8.2%
4	ウォルト ディズニー	8.3%	4	バンダイビジュアル	7.8%
5	ジェネオン・ユニバーサル	8.0%	5	ソニー・ピクチャーズ	7.1%

2010年 ディストリビューター(販売元)

順位	ディストリビューター	数量構成比	順位	ディストリビューター	金額構成比
1	ワーナー・ホーム・ビデオ	12.2%	1	ジェネオン・ユニバーサル	10.5%
2	ソニー・ピクチャーズ	10.3%	2	ポニーキャニオン	10.5%
3	ジェネオン・ユニバーサル	9.8%	3	ソニーミュージック	10.1%
4	キングレコード	9.0%	4	キングレコード	9.8%
5	ソニーミュージック	8.5%	5	バンダイビジュアル	8.1%

※ジェネオン・ユニバーサルは、旧ジェネオン・旧ユニバーサルピクチャーズ含む

2011年の映像ソフト市場は、微減傾向がさらに継続すると見られるが、Blu-rayソフト市場の成長によっては金額の減少幅が縮小する可能性も。

【2011年の展望】

2010年のセル映像ソフト市場は、通常DVDソフトの落ち込みをある程度Blu-rayソフトがカバーしたため、数量前年比1%減、金額前年比3%減という結果となった。市場全体でのここ数年の10%前後(金額ベース)の前年割れ傾向には、歯止めがかかったと言える。2011年は、Blu-rayソフト市場が引き続き高い成長率で拡大すると予想されるものの、通常DVDソフトの落ち込みを完全に補うには至らず、市場全体では微減傾向が続くと見込む。但し、より価格の高いBlu-ray比率が増加することにより、金額の減少幅が縮小する可能性もある。

2010年の傾向を見る限り、映像ダウンロード、ビデオオンデマンドの普及は限定的であり、映像ソフトへの影響は顕著にはなっていない。しかしながら、映像配信のインフラ整備は今後さらに進むと見られ、セル市場のみならず、レンタル市場への影響も見守る必要がある。

2011年の最大の焦点は、やはりBlu-rayソフトの普及スピードがどの程度加速するかに絞られる。総務省調査によると、地上デジタル放送対応受信機の世帯普及率は90.3%に達した(2010年9月時点)、高精細・高画質な映像はより身近なものとなった。エコポイント制度終了に伴い、BDレコーダー市場の成長率はやや鈍化すると見られるが、世帯普及率は30%程度(当社推計、2011年12月時点)と推測され、普及余地は依然として大きい。3D機能搭載の話題性も追い風になり、BD視聴環境は着実に整っていくだろう。3Dは、映像ソフトにおいても魅力的な訴求ポイントとなると予想される。2010年に発売されたBlu-ray 3Dソフトは20本に満たないが、「バイオハザードIV アフターライフ IN 3D」のように販売数量1万枚を超える作品も既に出てきており、2011年の動向に期待が持てる。

ハード面での環境整備が進み、邦アニメや洋画以外の幅広いジャンルでBlu-rayの本格展開が始まれば、市場はさらなる盛り上がりを見せるだろう。3Dという新機能による後押しも手伝い、Blu-rayソフト市場は2010年のおよそ1.5倍へと成長を遂げると見込む。

(西川泰明)

GfK Market Watch 2010 映像ソフト市場総括レポートのお問合せ先:
ジーエフケー・ライフスタイルトラッキング・ジャパン 株式会社
メディアコンテンツ事業部
tel: 03-5350-4624